

# 安楽寺だより

第36号

紙面内容

- 2面 「伊勢湾台風六〇年」を語る
- 3面 東本願寺報恩講団参のご案内
- 4面 日本仏教史(まとめ) 第一回

編集・発行 安楽寺住職 吉田 和良  
 名古屋市瑞穂区井戸田町一の八〇  
 電話 〇五二(八四一)二六〇六

また西の岸のうえに人ありて喚(よぼ)うて言  
 わく、「汝一心に正念にして直ちに來れ、我よく  
 汝を護らん。すべて水火の難に墮(だ)せんこと  
 を畏れざれ」と。……

親鸞聖人が大切にされた善導師の「二河白道のた  
 とえ」のおはなしは、「この白道を尋ねて行きなさい」  
 という東岸より聞こえたお釈迦さま・諸仏の勸(すす)  
 める声に続き、西岸から喚声(よぼこえ)に気づきます。

「西岸のうえの人」とは、阿弥陀さまであり、誓願  
 の声が聞こえてまいります。「汝、一心に正念して」と  
 は、想いを我としていた行者自身は、呼び覚まされ、  
 阿弥陀さまの選り取られた本願の念仏(正念)に生き  
 ていく身になる(一心)ことを願われていることに気  
 づくのです。これを【弥陀の招喚】と申します。

「直ちに來れ」とお招きくださっている喚びかけで  
 あります。浄土のみ教え聞法するとは、阿弥陀さまの  
 誓願を聞かせてもらい、阿弥陀さまの本願を信ずる身  
 となることをあらわします。

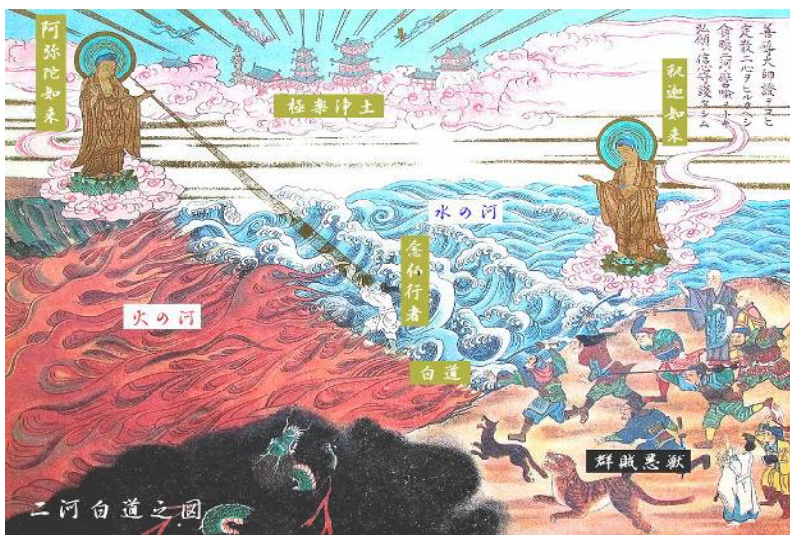
## 二河白道のたとえ⑨

親鸞聖人は、ご自身のお書きになられた  
 「教行信証」の最初に「ひそかにおもんみ  
 れば」に続き「阿弥陀さまの誓願は、難度  
 海を度する大船、無明の闇を破(は)する恵  
 日なり」と申されます。

自分自身の煩惱の重さに直面して、道を  
 求めてさまよい、自力で浄土のおしえを求  
 めても出口が見つかからない行者に、阿弥陀  
 さまは大悲のこころでお招き喚びかけられ  
 ます。

「我よく汝を護らん、すべて水火の難に墮  
 せんことを畏れざれ」とは、病む子供を必死  
 に救わんとする母親のように、人間の悲し  
 みに寄り添い、呼び覚まされて生きる「ひ  
 とすじの白道」を歩んで来なさいと、お喚  
 びかけされます。たとえいかなる災難の中  
 にあれ、人生を丁寧な、どこまでも白道を

歩む新しい人の誕生をうながされてい  
 るのであります。



人間の悲しみに寄り添い  
 呼び覚まされて生きる

# 災害を知る

## 「伊勢湾台風60年」

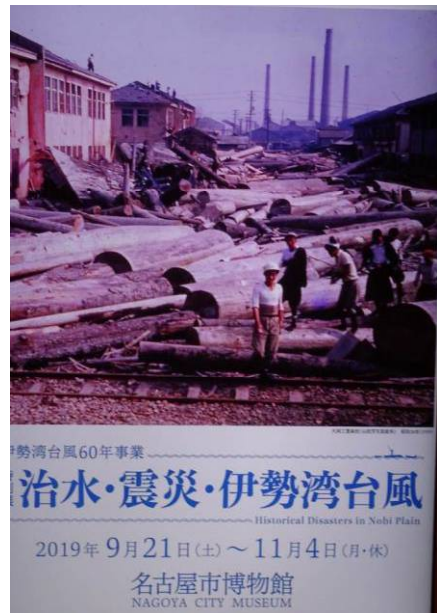
今年には伊勢湾台風から六十年。私は実家の愛知県西部の津島市で被災しました。被害は庭の松が倒れたことと、豪雨による洪水で床下浸水でした。しかし港区南陽町に住んでいた叔母と従妹の園児は高潮が押し寄せたため、近くのため池で亡くなりました。

遠い過去の出来事と想う一方、全国各地で毎年のように発生する台風被害のほか地震・大雨などによる災害は繰り返して起きています。少しでも被害を少なくするには、過去に起きた現実をしっかり受け止め、災害に備えなければと思います。

名古屋市博物館（瑞穂区瑞穂通二）で開催中の



名古屋市南部地区の被災地（上下）



伊勢湾台風六〇年特別展「治水・震災・伊勢湾台風」を見学してきました。

特に衝撃を受けたのは、暴風雨・高潮によって、名古屋港の貯木場から流れ出した丸太により住宅が次々と破壊されたこと、一気に水かさが増して逃げられずに亡くなられた方は、名古屋市を中心に五千名を上回る大災害でした。

当時一般市民に広まり始めたカメラに収められた多くのパネル写真が展示されていました。また、当時被災された方が語るビデオ映像を見学することができま

す。（月曜休・十一月四日まで開催）

六十年前の伊勢湾台風と平成十二年の東海豪雨以降、東海地区では大きな災害が起きていません。しかし明日にでもあるかもしれない災害に備え、「災害が予想されたら早めに避難する」心構えが大切だと思います。



港防災センター（上下）



ほかにも名古屋市港区役所となりにある名古屋市港防災センターには、伊勢湾台風を知るコーナーや地震体験・防災教室などが常設されています。また、三重県の長島温泉すぐ北側に「伊勢湾台風記念館」（見学は予約制）があります。ぜひ一度訪れていただければと思います。



伊勢湾台風記念館



# 本山報恩講参拝ご案内 若院出仕

京都・東本願寺(真宗本廟)の御影堂で  
営まれる報恩講に十一月二十五日(月)  
二十二組寺院・ご門徒の皆様と団体参  
拝致します。

親鸞聖人の御真影の前に対面して着  
座すると、いまの私自身の生き方が問  
われているように感じます。

「毎日毎日周りに振り回され、忙しい  
忙しいと生活しているが、それでいい  
のか？」との聖人のお呼びかけが、正  
信偈のお勤めを通して聞こえてきま  
す。

今年五月、御影堂をはじめ真宗本廟  
建物のうち、六棟が国の「重要文化財」



東本願寺の御影堂

に指定され  
ました。文  
化庁の答申  
では、「近世  
以来の伝統  
木造建築技  
術による、  
比類ない規  
模と高い格  
式を備えた  
近代の寺院  
建築群とし  
て高い価値  
を有する」  
と、評価さ  
れました。

報恩講は、親鸞聖人のおしえに出会い、  
お一人お一人の生き方を尋ねていく法要で  
す。ぜひともご参拝いただけますよう、ご  
案内申し上げます。尚、今年の本山報恩講  
に、安楽寺若院が准堂衆として外陣出仕  
いたします。

参拝ご希望の皆様は、二十二組団体参拝  
募集要項をご覧の上、十一月十日(H)まで  
に、安楽寺までお申し込み下さい。  
(団参パンフレットの必要な方は、安楽  
寺・八四一・二六〇六までご連絡下さい。)



報恩講御満座・坂東曲のお勤め

## 秋彼岸墓法要勤める

九月二十日、八事霊園安楽寺墓地に於い  
て、秋の彼岸墓法要をお勤め致しました。秋  
とはいえ暑さが残る日和でしたが、早朝より  
大勢の皆様にご参詣いただきました。

十時三十分より永代供養墓の前でお勤め  
する中、ご参詣いただいた八十名を越す皆様  
に、お焼香して  
いただきました。

法要の様子  
は、会館にお参  
りいただきました  
皆様にも、ス  
クリーンを通し  
てお伝えしまし  
た。

参詣された皆  
様は、「彼岸」  
にご往生された  
今は亡き方に想  
いを馳せておら  
れました。ご参  
詣、誠に有難う  
ございました。



# 仏教豆知識

第三十六回



## 日本仏教史

### まとめ(第一回)

仏教が伝来した一五〇〇年前の西暦六世紀中頃は、日本の国家体制が整いつつあった時代です。聖徳太子が、『十七条の憲法』で「仏法僧の三宝を敬え」と、仏教を国の統治規範とし、寺院建立を進めました。しかし、その後仏教勢力が強まり、国家と対立することが出てきました。

十一世紀になると、末法思想が広がり、浄土信仰が流行します。仏教が民衆の中に浸透し、在家信者を持つ浄土宗や日蓮宗など多くの宗派が誕生します。また、武士が国家を支配する時代を迎えると曹洞宗・臨済宗の禅宗各派も隆盛してきました。

その後、十五世紀のいわゆる「群雄割拠」の戦国時代には、より深く民衆の中へ教えを説く仏教勢力が、全国各地に登場します。中には戦国大名と対立する勢力もありまし

たが、豊臣政権の時代は、その力を利用して国家を治めようとなりました。十七世紀の初め、徳川政権の時代に至って宗教勢力は、幕藩体制に組み込まれていきました。現在の仏教各宗派の多くは、徳川時代に本山を頂点とした教団としての組織が成立しました。

十九世紀中頃に成立した明治政府は、「神道思想」を国家の中心とする政策を推進します。一八六八年(明治元年)「神仏分離令」によって廃仏毀釈の動きが、全国各地で起こり、危機感を持った仏教教団は、一八八九年(明治二二年)明治憲法によって「信教の自由」を獲得します。一方、大谷派宗門は、明治政府の対外拡張政策の中、その一翼を担う体制をとり、朝鮮半島や中国大陸など東アジア各地に教線を拡大していきました。



聖徳太子

三月十一日、八月六・九日と聞く多くの皆様は、東日本大震災や広島・長崎の原子爆弾投下を思い起こされると思っています。自然災害や戦争被害に遭われた方々には、苦難を強いられた当時が蘇ります。▼九月二十六日は、名古屋市民にとって千八百人余の被害者を出した未曾有の台風被害として記憶に残っておられると思います。▼港防災センターは、家族連れ皆様も大勢来られていて、係員の説明もあります。水害と地震コーナーは災害を疑似体験でき、いざという時に役立つのではと感じました。▼各地で体験を語り続けておられる方の話に真剣に耳を傾け、静かに寄り添うことこそ、二度と被害に遭わないために大切なことだと思います。東海・東南海トラフの大地震が迫っているかもしれません。